

平成28年度消防庁 第2次補正予算について

消 防 庁

平成28年度第2次補正予算の概要

予算20.2億円

I 緊急消防援助隊の災害対応能力の強化等

8.7億円

熊本地震での活動を踏まえ、緊急消防援助隊の情報通信体制や後方支援体制等を充実強化。

○情報通信体制の充実強化

- ・ 緊急消防援助隊動態情報システムの高度化 0.6億円
- ・ ヘリコプター動態管理システムの整備(9機分) 1.2億円
- ・ ヘリテレ受信装置の配備(23台) 1.3億円
- ・ 無線中継車の配備(1台) 1.0億円

○後方支援体制の充実強化

- ・ 拠点機能形成車両の配備(1台) 1.3億円
- ・ 燃料補給車の配備(9台)0.9億円

○その他(消防庁の災害対応能力の向上)

- ・ 衛星車載局車の整備(1台) 1.4億円
- ・ 電源設備の整備 1.0億円
- ・ 指揮支援車の整備(1台) 0.05億円



拠点機能形成車両

II 消防団の装備・訓練の充実強化

6.6億円

救助資機材等を搭載した消防ポンプ自動車等を地方公共団体に無償貸付けし、消防団の装備や訓練を充実強化。
(33台)



救助資機材搭載型
消防ポンプ自動車



投光器



エンジン
カッター



自動体外式除細動器 (AED)



油圧カッター

主な救助資機材等

III 災害情報伝達手段等の高度化

4.9億円

高齢者など地域にきめ細かく防災情報が行き渡るようになるため、防災行政無線の戸別受信機の活用等に係るモデル事業を実施し、災害情報伝達手段等を高度化。

緊急消防援助隊の災害対応力の強化等

熊本地震を踏まえ、緊急消防援助隊動態情報システムの高度化、ヘリコプター動態管理システムの整備、無線中継車等の配備を行い、緊急消防援助隊の情報通信体制を強化するとともに、燃料補給車等の配備により後方支援体制の充実等を図る。 【H28補正 8.7億円】

1. 緊急消防援助隊動態情報システムの高度化 0.6億円

緊急消防援助隊の適切な部隊運用を行うため、出動状況等をリアルタイムで把握できるよう、動態情報システムの高度化を図る。



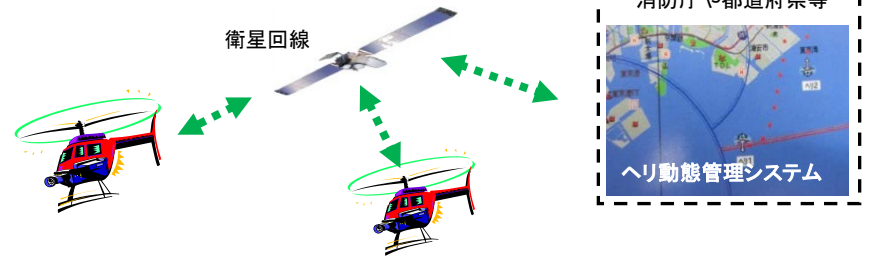
2. 無線中継車等の配備 2.3億円

ヘリによる被災地の映像情報をリアルタイムで配信できるよう、必要な無線中継車とヘリテレ受信機を配備する。



3. ヘリコプター動態管理システムの整備 1.2億円

ヘリの運用をより効率的に行うため、ヘリの位置情報を消防庁や県災対本部等で把握・共有できるよう、ヘリ動態管理システムの整備を進める。



4. 拠点機能形成車両の配備 1.3億円

被災地において、環境にとらわれず指揮所や宿営場所を設営できる拠点機能形成車両を配備する。



5. 燃料補給車の配備 0.9億円

緊急消防援助隊が消火・救助等の現場活動に専念できるよう、燃料補給車を配備する。



6. 消防庁の災害対応能力の向上 2.4億円

- ・衛星車載局車の整備 1.4億円
- ・電源設備の整備 1.0億円
- ・指揮支援車の整備 0.05億円

消防団の装備・訓練の充実強化

- 今後想定される南海トラフ地震等や、台風・竜巻・集中豪雨等の大規模自然災害から住民を守るためには、地域防災の要である消防団等の教育訓練の充実強化は必須。
 - 大規模災害時は、現場状況の把握ができない中で、先着する消防団は、消火・救助・救出・応急処置等の多様な初動対応を行うことが求められる。
 - そのため、消火・救助・救出・応急処置等に対応可能な救助資機材等を搭載した消防ポンプ自動車等を地方公共団体に無償で貸し付け、教育訓練を実施することにより、消防団の災害対応能力を向上させる。
- 【H28補正 6.6億円】

訓練・初動対応多機能自動車 33台

- ・ 救助資機材搭載型消防ポンプ自動車
(0.2億円×33台)

救助資機材等を搭載した消防ポンプ自動車等を無償で貸し付け、教育訓練を実施することにより、消防団の災害対応能力の向上を図る。



消防団の災害対応能力の向上

整備する車両・資機材（イメージ）

【救助資機材搭載型消防ポンプ自動車】



【搭載予定救助資機材等】



災害情報伝達手段等の高度化

高齢者など地域にきめ細かく防災情報が行き渡るよう、防災行政無線の戸別受信機等の活用等に係るモデル事業を実施し、災害情報伝達手段等の高度化を図る。 【H28補正 4.9億円】

モデル事業の主なポイント

- ① 防災行政無線の戸別受信機等の適切な配備・活用
- ② 多様な情報伝達手段の効率的・効果的な組み合わせ
- ③ システムを活用した情報収集・共有等の仕組みの整備

防災情報等の流れ(イメージ)

